

都市公園事業 (河川環境楽園)

受賞機関 建設省中部地方建設局木曾川上流工事事務所
岐阜県地域県民部事業経営政策課
建設省土木研究所
日本道路公団名古屋建設局

岐阜県羽島郡川島町笠田にある「河川環境楽園」は、国営公園（建設省）、県営公園（岐阜県）、自然共生研究センター（土木研究所）、東海北陸自動車道・川島パーキングエリア（道路公団）からも直接入園ができるハイウェイオアシス（建設省）から構成された環境共生型テーマパークの公園である。

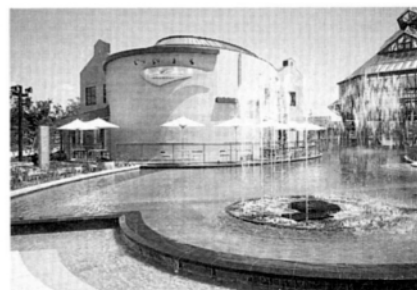
本公園は、昨年（2007年）の7月17日に約50haを開園し、5月末現在で約280万人の方が公園を利用している。

公園の特徴的なものとしては交通のアクセスにあり、一般道からの入園はもとより、東海北陸自動車道からの乗り入れを可能とし、遠方からの高速道路を利用した立ち寄り来園者が多い「行楽型」の公園である。

国営公園では、自然発見館から環境教育の情報を発信し、木曾川水園や河原広場等のフィールドを活用した環境教育ができる「学習型」の公園でもあり、近隣の学校のみならず他県の学校からも環境教育プログラムへ多数参加している。園内は、木曾川の源流から河口までの情景をモチーフとし、木曾川水園に「景」を創出するとともに木曾川の自然や風土・文化を遊びながら学ぶことができるわが国初の参加体験型の公園である。

県営公園では、川や湖沼に生息する生物と人間との様々な係りを紹介する淡水水族園を目指している。第一期開園では水中探検レストランにおいて、コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティの技術を使い人口頭脳を持った淡水魚の映像を流し、楽しみながら淡水魚の学習ができ、その他、園内には県産品などの商業施設を備え来園者の便益に寄与している。

自然共生研究センターは、河川・湖沼の自然環境保全・復元のための基礎的・応用的研究を行い、その結果を広く



水中探検レストラン全景



水中探検レストラン内の様子



自然発見館



環境学習の様子

普及することを目的にしている。世界最大規模の800mの実験河川や実験池では、河川・湖沼の「空間」「水」「人間」の相互関係の理解と、それに基づいた適正な河川管理手法を明らかにするための調査研究を本公園開園前の平成10年11月より行っている。

川島パーキングエリアは、ハイウェイオアシスと一体として整備されることから、①駐車柵のカラー舗装、②駐車場内の橋脚には、川島町に生息している動物をデザインしたパネルの設置、③従来の擁壁のコンクリート面にペットボトルをリサイクル利用して植生基材を固定した緑化等、景観や環境に配慮したものとしている。

今後、さらなる公園の利用に向け、利用者のニーズを把握し、関係機関一体となり運営・整備を進めているところである。

受賞賛助会員

㈱市川工務店、イビデングリーンテック㈱、㈱荏原製作所、大林道路㈱、大日本土木㈱、㈱東芝



実験河川実験池全景

さいたま新都心中枢・中核施設建設事業

受賞機関 埼玉県住宅都市部新都心施設課

はじめに

埼玉県は、関東地方の中央部に位置し、東日本の交通の要衝という地理的条件に恵まれ、首都機能の一翼を担う県として大きく変貌を遂げつつある。

東京への過度の依存を是正し、県民が誇りと愛着を持てる魅力ある自立性の高い都市圏を実現するため、『さいたま新都心』の整備を進めている。

「けやきひろば」及び「さいたまスーパーアリーナ」は、それぞれ『さいたま新都心』の中核施設、中核施設として位置づけ、埼玉県が整備を行ったものであり、平成12年9月に本格オープンの手配となっている。

施設の特徴

「けやきひろば」は、平成9年度から建設に着手し、平成12年3月に完了した。屋上に当たるひろば階(人工地盤上)に武蔵野の森をイメージした「空の森」というテーマのもとに、県の木であるけやきを220本植栽し、1階は「大地の起伏」をテーマとして床面に緩やかな起伏を施し、飲食・物販店舗を配置している。

また「さいたまスーパーアリーナ」は、平成8年度から建設に着手し、12年3月に完了した。音楽・スポーツ・産業・文化など様々な分野での拠点となる多目的イベント施設で創造的なデザインはもとより、大屋根に覆われた空間の中を客席、コンコース、トイレ、ショップなどを含む総重量1万5千tの世界最大級の可動機構である「ムービングブロック」



けやきひろば外観



スーパーアリーナ南面外観



スタジアムモード



メインアリーナモード

が70m水平移動することで、メインアリーナとスタジアムという二つの異なる形態に可変できることが最大の特徴である。

施設の概要

・けやきひろば

所在地：与野市上落合地内

敷地面積：11,100m²

建築面積：10,136m²

延べ面積：23,687m²

構造階数：RC造一部S造、地下1階・地上3階

・さいたまスーパーアリーナ

所在地：与野市上落合及び大宮市錦町地内

敷地面積：45,007m²

建築面積：43,730m²

延べ面積：132,398m²

構造階数：S造・一部SRC造・RC造、地下1階・地上7階

受賞賛助会員

住友建設(株)、大成建設(株)関東支店、(株)東芝、西松建設(株)、三菱重工業(株)、(株)ユーディケー

桜堤団地関連仙川水辺環境整備事業

受賞機関 都市基盤整備公団東京支社建替業務部土木課

はじめに

仙川は、小金井市貫井北町三丁目に端を發し、小金井市、武蔵野市、三鷹市、調布市を経て世田谷区に入り、同区鎌田3丁目で野川に注ぐ、流域面積19.8km²、流路延長20.1kmの多摩川水系の一級河川です。

従来、団地内を流下する仙川は、コンクリートの3面張りの構造となっており、水がほとんど流れず植物も生育しない環境であった。

事業の経緯

桜堤団地の建替事業を計画するにあたり、武蔵野市策定の「武蔵野市緑の基本計画-むさしのリメイク」において、重点事業の一つに位置づけられ市と協議した結果、団地建替事業と一体的に仙川周辺の環境保全施設整備事業を行うことに決定した。

平行して、河川管理者の東京都、武蔵野市及び公団による検討委員会を設置し、計画を取りまとめた。

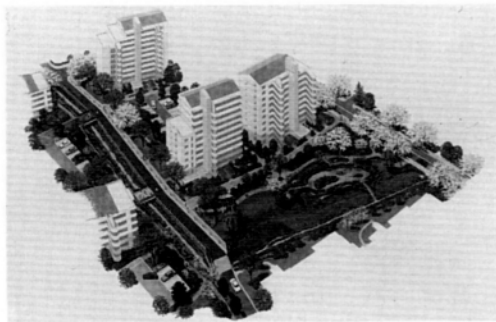
団地に接する仙川は約700mあり、今回は、第1期建替範囲に接する約220mについて整備した。



公園と一体となった河川



住み着いたカモ



整備範囲全体マップ



川底の仕上り



平成10年度国庫補助を得て、河川管理者である東京都と調整を図り、事業主体である武蔵野市からの受託により環境保全施設整備事業として一体的に水辺環境を整備した。

また、建替事業において新設する団地内の「仙川水辺公園」は、その一部を河川区域として取り込むことにより親水空間を有する豊かな自然環境を実現し、平成11年10月末第1次入居とともに完成した。

事業の特徴

- ①仙川の水辺再生を主眼とし平常時の流量確保のために、当該公園内に碎石空隙貯留槽を設け、ソーラー発電の動力により貯流水（雨水）の放流を行い、仙川のせせらぎの再生が図られたことは、河川と建替の両事業が相乗的な効果を生み出した結果である。
- ②碎石空隙貯留槽に使用した碎石は、建物解体に伴い発生したコンクリート塊を団地内でリサイクルしたものを用了。
- ③巨石、木の杭による流水の変化、石を配置した川底の工夫により多彩な生き物が生息する自然の川を目指した。
- ④公園部に開放的な池を配置するとともに、仙川に流れ落ちる部分に水質を浄化する施設を設ける。